



令和6年度 すくわくプログラム活動報告

(実施対象：3.4.5歳児クラス) 向原保育園



テーマ 植物 **対象クラス** くるみ組(3.4.5歳児クラス)

設定理由

子どもたちが日常の中で出会う植物。このテーマでは、木や花、野菜などの植物を「見て・触れて・育てる」経験を通して、自然への関心や愛着、そして命の大切さを学びます。

また、育てる・収穫する・利用するという一連の体験を重ねることで、「人と自然のつながり」に気づくこともねらいとしています。

活動回数

2回

活動期間

令和7年5月～10月

活動① 野菜の名前を知り、食べる部分を考えてみよう!



【実施日】 令和6年10月7日

【問 い】 「野菜って、どこの部分を食べているんだろう？」
身近な野菜の名前や形、食べる部分に注目し、野菜の体のしくみを知ることを目的とした活動を行いました。
クイズや遊びを通して、楽しく野菜博士を目指しました!

【準備物】 栽培した野菜・世話などの経験を写真にしたもの、プロジェクター

【活動内容】

🧠 ①「野菜クイズで知識アップ!」

園で育てた野菜や日常の食事に登場した野菜など、これまで子どもたちが関わってきた写真や動画を見ながら活動スタート!



担任が

「今日は野菜についてクイズをしながら、
“ものしり博士”になりたいと思います!」

と宣言すると、子どもたちのやる気スイッチがONに!



知っている野菜の名前を元気に発表し、それをカードにしてホワイトボードに貼っていました。「これはトマト!」「ぼくはブロッコリー知ってる!」と、みんなの前で堂々と発言する姿も見られました。



✿ ②「どこを食べている？可食部当てクイズ」

次は、「この野菜のどこを食べているのかな？」という問いかけにチャレンジ！

野菜には、「根」「葉」「花」「実」「種」などの部分があることを知り、地下と地上を描いた模造紙を使って、野菜カードを貼りながら当てっこ遊びをしました。

たとえば…

- 「じゃがいもは土のなかにできるよね！だから“根”かな？」
- 「トマトは、土の上にいるから“実”だよ。」

など、これまでの経験や想像力をもとに自信たっぷりに答えていました。

そして、遊びの中で自然と分類や観察の視点を学ぶことができました。

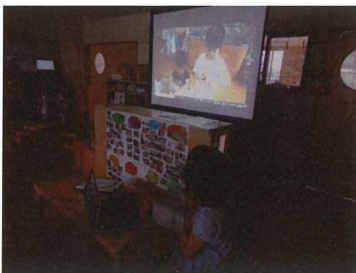


🔥 ③「皮も使える？草木染めへの導入」

クイズの最後には、「食べない部分ってどうしてる？」という問いから話が広がり、玉ねぎの皮の話に。「玉ねぎの皮で草木染めができるよ！今度、みんなでやってみよう！」これまで給食室のお手伝いでたくさん集めた玉ねぎの皮を使って草木染めをすることを提案しました。これには子どもたちも興味津々。

「やってみたい！」「何色になるんだろう？」と、次回の活動への期待が高まりました。

環境認識「野菜」の種類・名称を知る



始めは、みんなのお世話をした野菜の写真をしながら今まで育ててきた野菜の振り返りをしました。次に、みんなが知っている野菜の名前を教えてくださいました。みんなが知っている野菜をクイズにして、名称・どこにできるかわかる人を聞いてみました。地下・地表の模造紙に写真を貼ってみました。野菜の可食部はどこなのかも質問して聞いてみると、大人でも知らないことが多かったです。

【ドキュメンテーション】



活動② 野菜の「食べるところ」「食べないところ」って？



【実施日】 令和6年10月18日

【問 い】 「野菜って、全部食べられるの？」
「捨てるところは、本当にいらないのかな？」
普段何気なく食べている野菜にも、「食べる部分」と「食べない部分」があることを知り、その中で実は無駄なく活用できる部分があることに気づくきっかけをつくりました。

【準備物】 自分たちが剥いた玉ねぎの皮のストック、洗濯ネット、焼きミョウバン、綿布、ステンレス鍋、カセットコンロ、ボウル、ザル、輪ゴム、たらい（前日までに豆乳1対水2の溶液に、布を入れ浸し絞って乾かしておく。）

【活動内容】

🔥①「食べる？食べない？野菜カードでクイズ！」

「玉ねぎの皮むき、みんなのおうちではどうしてる？」という問いかけをきっかけに、野菜カードを使って可食部と非可食部について話し合いました。
食べる部分以外の ところを知っているか問いかけると

「とうもろこしのひげ」「柿の葉」



など経験から知っていることを思い出す様子がありました。

また、「生で食べる」「火を通す」など

さまざまな調理の仕方があることに気づきを得て、家庭での経験や保育園での体験が自然とつながり、野菜の知識がどんどん深まっていきました。

🎨②「玉ねぎの皮で草木染めに挑戦！」

みんなが調理のお手伝いでよく関わってきた“玉ねぎの皮”。

今回はこの皮を使って、「草木染め」に挑戦しました！



●染色の工程

- ・玉ねぎの皮をネットに入れて、水と一緒にぐつぐつ煮出し、「染め液」を作ります。
- ・子どもたちは布を自由に折りたたみ、輪ゴムで好きな場所をくくって模様づくり。
- ・出来上がった染め液に布を入れて煮たあと、ミョウバンで作った媒染液に浸して色を定着させます。
- ・最後に輪ゴムを外して広げると

…それぞれに違う、美しい模様が浮かび上がりました！

【子どもたちの気づき・学び】

「皮って捨てるだけじゃなかったんだ！」「輪ゴムの場所で模様が変わるの面白い！」

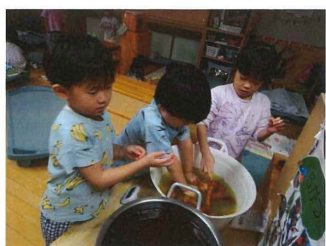
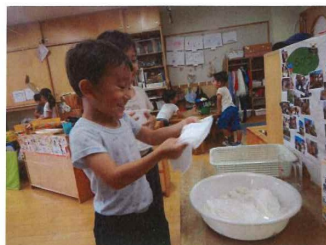
「野菜にはいろんな力があるんだね」

遊びながら学び、手を動かしながら考え、自然と“もったいない”の心や、自然を活かす知恵に触れることができました。

【ドキュメンテーション】



環境認識・課業／テーマは野菜～玉ねぎの皮で草木染め！



草木染のハンカチを作りました。給食室の手伝いで玉ねぎの皮むきをしていましたが、いよいよ溜まったので今日はお楽しみの草木染です。食物は、食べられない所も色々な利用法があることをみんなで確認しあってからいざ作業へ！昨日から豆乳液に浸して準備完了のハンカチに、輪ゴムで縛った布を、浸して絞って洗って…の繰り返し。皮を煮出す時の香りが格別で「いい匂い！」とニコリ笑顔。どんな模様になるか？乞うご期待です😊

全体の振り返り テーマ「植物」

今回の活動では、野菜を通して「知る」「比べる」「活用する」という流れを意識しながら、2回にわたって体験を重ねました。

活動①では、野菜の名称や種類を知ることから始まり、それぞれの可食部がどの部位にあたるのか（根・葉・実など）をクイズ形式で考える中で、子どもたちが「地下と地上のどこに実るのか」「同じように見えるけど、育ち方が違う」など、違いに気づき、比較しながら学ぶ姿が見られました。

活動②では、普段は捨ててしまうような野菜の皮や端の部分にも使い道があることを知り、「食べる・食べない」ではなく、「活かせる・活かせない」といった視点に子どもたちの関心が広がっていきました。中でも、玉ねぎの皮を使った草木染めでは、色の変化や模様の出方に驚きと喜びがあり、“自然のものが何かに生まれ変わる体験”が、子どもたちの五感と心に深く残ったように感じます。

また、両活動を通して、子どもたちは食材により深く関心を持つようになり、家庭での料理や保育園での調理活動にも興味を持つ姿が増えました。食への関心や「もったいない」「ありがたい」という気持ちの芽生えが見られ、次の活動（栽培・収穫・調理）へとつながる土台づくりとなりました。